

資料3

部会グループ会議における意見と県の対応

NO	委員名	意見	対応	二次評価（案）
1	未病			
1	伊達委員	特定健康診査の有効性や診査後のフォロー体制を含めて抜本的な見直しが必要	ご意見については事業実施の中で参考とさせていただきます。	概ね順調です ・未病の取組みについて、県民にさらに浸透するような取組みが必要です。 ・県民が自らの健康状況を把握する手法等をわかりやすく示していく必要があります。
2	伊達委員	未病の取組みについて、県民に発信する情報やその浸透の評価モデル、また、それらの取組みの結果としての県民の健康診断の評価方法、測定方法の体系だった取組みが希薄	二次評価（案）に反映しました。	
3	川名委員	数値目標の②の分析欄にある「若い世代」を明らかにすべき	ご意見を踏まえ、評価報告書の記述を修正しました。	

NO	委員名	意見	対応	二次評価（案）
2	医療			
1	伊達委員	最先端医療については、産業育成支援の視点と県民健康の視点の整理が十分にされていない。特に、最先端医療がどういう形で県民の健康に寄与するのかということが、がんセンターにおける重粒子線治療の取組み以外は、川崎市殿町地区での取組みをふくめて分かりづらいので整理すべき。	二次評価（案）に反映しました。	<p>概ね順調に進んでいます</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最先端医療の実用化や普及促進が県民の健康増進・医療環境向上に寄与することをわかりやすく示していく必要があります。 ・看護等の人材確保については、就労をとりまく環境の改善などとあわせて、さらなる取組みが必要です。
2	伊達委員	数値目標③の「75歳未満の10万人当たりのがんによる死亡数」の分析欄に、アミノインデックスやゲノムの解析などの、がんの早期発見等の取組みについて記載すべき。	ご意見を踏まえ、評価報告書の記述を修正しました。	
3	伊達委員	医療課題の整理を十分に行うべき。また、特に課題とされている事象の社会的インパクトの評価をすべき。例えば、医師の地域偏在が課題に挙げられているが、医師がいることが、かならずしも健康促進につながるわけではない。	ご意見については事業実施の中で参考とさせていただきます。	
4	伊達委員	数値目標③は、評価のウェイトを小さくすべき。がんの死亡者数については、おそらく10年くらい前からがんが始まっている。未病の取組みが10年前のものであれば評価するのよいが、2015年の数字では評価できない。	ご意見については事業実施の中で参考とさせていただきます。	
5	川名委員	未就業看護職員の掘り起こしに向けた具体的な取組みを示す必要がある。	ご意見を踏まえ、評価報告書の記述を修正しました。	
6	伊達委員	数値目標④を達成するための取組みを継続していくことは重要だが、男女共同参画や雇用などの環境整備が前提にないと、かえって医療環境が劣悪になる。保育環境等を整えて看護師復帰を増やしていくなど、他の施策と連携して取り組む必要がある。	二次評価（案）に反映しました。	

NO	委員名	意見	対応	二次評価（案）
3	高齢者福祉			
1	伊達委員	<p>施策全体にも言えることだが、過去から今までの社会システムを前提としていて、これからどういう社会システムになっていくのかをベースとした施策になっていない。</p> <p>高齢者が十分に社会参加できるよう、今後高齢者が社会の中でどのような役割を果たしていくのか、また、その役割を果たせるようどのような環境整備がされていくのかを示すべき。</p>	二次評価（案）に反映しました。	<p>概ね順調に進んでいます</p> <p>・高齢者の健康・生きがいがいづくりにとどまらず、高齢者の社会参加の促進についても、取組みを進めていく必要があります。</p>
2	伊達委員	<p>高齢者に関する施策、特に社会参加については、資産を持つ高齢者の消費を促すという経済的側面にも関連しており、重要である。</p>	ご意見については事業実施の中で参考とさせていただきます。	

NO	委員名	意見	対応	二次評価（案）
4	障がい者福祉			
1	橋本委員	大人への理解促進も必要だが、子どもの頃からの教育が欠けているのではないか。（障がいのある方たちとコミュニケーションをとる機会がない。小学校でも別々。大人になったときにどういう支援をしていいかわからない。）	二次評価（案）に反映しました。	概ね順調に進んでいます。 ・障がい者の理解促進については、あらゆる世代においてさらに取組みを進めていく必要があります。
2	橋本委員	障がい者が言うには、助け方が分からない人は、やりすぎたりやらなすぎだったりしてしまう。障がい者は全部をバリアフリーにするよう望んでいるわけでもない。自分たちのために特別にというのではなく、みんなが使いやすいようにしてもらえたらと。インフラも大切だが、教育も大事。	ご意見については事業実施の中で参考とさせていただきます。	
3	伊達委員	「教育」と「認識」による障がい者理解の促進が必要。プロジェクト15の、障がいを個性として受け入れていく、物事を多面的・多角的な捉え方ができる人材をどう育成していくかというところにうまく盛り込むのがよい。（障がい者による水道メーターの分解・分別作業の活動にも私たち社会が支えられている。そういうことに対する認知が進む仕組みがインクルーシブ教育に加えてあるといい。知るということが大切。）	二次評価（案）に反映しました。	
4	牛山委員	数値目標の結果が未把握だった場合も、その連続性が見えて、概ね計画に沿って伸びてきたというのがわかるといい（グループホームの利用者数は、2013年の評価報告書の「グループホームなど地域で生活する人」の数に該当する。それが2014年では6,900人が目標だが、6,724が結果。ホームヘルプサービスは2014年目標値14,300が目標値だが、少し届かなかったということ。）	ご意見を踏まえ、評価報告書の記述を修正しました。	

NO	委員名	意見	対応	二次評価（案）
5	エネルギー			
1	内田委員	電力自由化に絡み、神奈川県内の小売電気事業者力の普及状況を数値で表すなど、ビジュアル的に見せると進捗が分かりやすいのではないかと。	ご意見を踏まえ、評価報告書の記述を修正しました。	概ね順調に進んでいます。
2	内田委員	再生可能エネルギーの割合がビジュアルとして見えると、どの部分が伸びているかなど分かりやすいので工夫してもらいたい。	ご意見を踏まえ、評価報告書の記述を修正しました。	
3	内田委員	神奈川県は、再生可能エネルギー等による発電に割合として、水力発電の割合が非常に高いが、既存の取組みとしてあまりPRしていない。神奈川の特徴としてもっとPRしても良いのではないかと。	ご意見を踏まえ、評価報告書の記述を修正しました。	
4	池本委員	原子力発電の問題がある中で、県内の電力構成がどのようになっているのかを見せることで、より自然エネルギーを使っていることを理由に移住などを検討する人も出てくるのではないかと。	ご意見については事業実施の中で参考とさせていただきます。	
5	池本委員	省エネ対策として、二重窓の設置などエネルギー効率を高める住宅の改築に対する補助や緑化の推進に関する支援が必要である。	ご意見については事業実施の中で参考とさせていただきます。	
6	川崎委員	水力発電の割合が高いことが、水源林の保全などによる取組みの成果といたった結果の現れであれば、神奈川県の特徴として見せていくことも良いのではないかと。	ご意見については事業実施の中で参考とさせていただきます。	
7	村井委員	水力発電などを事業として行おうとすると国や県などの規制が厳しく難しい現状があるため、規制緩和なども含めた取組みが必要である。	ご意見については事業実施の中で参考とさせていただきます。	

NO	委員名	意見	対応	二次評価（案）
6	産業創出			
1	内田委員	数値目標①に関して、実証実験の分野が示されておらず、単にロボットという産業ロボットをイメージしてしまうのではないかと。医療や介護現場などで使用するロボットであれば、生活支援ロボットなどといった具合に表現を工夫したほうが良い。	ご意見を踏まえ、評価報告書の記述を修正しました。	概ね順調に進んでいます。 ・ロボットと共生する社会の具体的な姿が実感できるよう、ロボットの実用化を進めるとともに、普及にもより一層取り組んでいく必要があります。
2	村井委員	実際に介護施設などにロボットが普及をしている中で、神奈川の目指すロボットの方向性、重点的に取り組んでいく分野などが出せるとよいのではないかと。	二次評価（案）に反映しました。	
3	村井委員	介護用の機器（ロボット）はまだ価格も高く普及に当たってはそのあたりを考慮しながら進めるべきではないかと。	ご意見を踏まえ、評価報告書の記述を修正しました。	
4	内田委員	数値目標②の県外・国外から立地した事業所数にどのような企業が含まれているのか示した方が良いでしょう。	ご意見を踏まえ、評価報告書の記述を修正しました。	
5	池本委員	数値目標③で新技術の実用化というが、量的な指標だけでなく具体例の記載もあると良いでしょう。	ご意見を踏まえ、評価報告書の記述を修正しました。	
6	川崎委員	事業数の増加は、雇用の増加だけでなくビジネスチャンスにもつながると思っているが、なかなかつながらないのが現状である。成功事例を見せることでよりよい連鎖を生むものとなるのではないかと。	ご意見については事業実施の中で参考とさせていただきます。	
7	内田委員	数値目標③について、神奈川発の技術件数がどのような分野で伸びているのか、増加傾向にあるのかなど状況を示す必要がある。	ご意見を踏まえ、評価報告書の記述を修正しました。	

NO	委員名	意見	対応	二次評価（案）
8	内田委員	ベンチャーが取り組むプロジェクトの事業化・起業支援17件については、どのような内容で、どこが支援をした件数なのかを示す必要がある。	ご意見を踏まえ、評価報告書の記述を修正しました。	
9	村井委員	神奈川の戦略：ロボットと共生する社会の実現 ロボットと共生する社会の記載が抽象的な感じがある。民間事業者がかなり動き出している中で、県はもう少し明確な、具体的な方向性を立てると良いのではないかと。	二次評価（案）に反映しました。	
10	内田委員	神奈川の戦略：ロボットと共生する社会の実現 県は補助金を出すばかりではなく、具体的な方向性を示すことが重要である。	二次評価（案）に反映しました。	
11	内田委員	神奈川の戦略：ロボットと共生する社会の実現 県は事業化した後も、事業者に対し継続的に支援を行っていくべきである。	ご意見については、事業実施の中で参考とさせていただきます。	
12	山本委員	神奈川の戦略：ロボットと共生する社会の実現 ロボットが人間の仕事を奪うという意見もあるが、ロボットと共生する社会において、人間が果たす役割は何なのか整理する必要がある。	ご意見については、事業実施の中で参考とさせていただきます。	
13	山本委員	神奈川の戦略：ロボットと共生する社会の実現 ロボットの活用結果、事故等が発生した場合の法的責任の問題についても、神奈川県としても検討していく必要がある。	ご意見については、事業実施の中で参考とさせていただきます。	

NO	委員名	意見	対応	二次評価（案）
7	海外展開			
1	内田委員	神奈川インダストリアルパークについては、内容の説明とともに、海外に設置したなどの記載の工夫が必要である。	ご意見を踏まえ、評価報告書の記述を修正しました。	概ね順調に進んでいます。 ・中小企業の海外展開支援を行うことで、企業の業務拡大に伴う雇用や売り上げの増加などが図られ、本県経済へのメリットが期待されることを県民に分かりやすく示していく必要があります。
2	内田委員	ドイツとの連携交流（バーデン＝ビュルテンベルク州）についての記載がないが、友好提携を結んでいるのだからもっと県政に活用していくべきではないか。	ご意見を踏まえ、評価報告書の記述を修正しました。	
3	池本委員	数値目標の②の人的交流件数について、定義や効果などを記載し、どのような内容かイメージしやすいものとすべき。	ご意見を踏まえ、評価報告書の記述を修正しました。	
4	川崎委員	数値目標②の人的交流件数については、国別の状況なども分かるとういのではないか。	ご意見を踏まえ、評価報告書の記述を修正しました。	
5	村井委員	海外からの誘致は税収が増えるなど県へのフィードバックがわかりやすいが、企業の海外進出の支援についてはフィードバックが分かりにくく、企業の活動を県が後押しする必要性が見えにくい。それが県民にどのように返ってくるのかが分かるような工夫があるとよいのではないか。	二次評価（案）に反映しました。	
6	内田委員	神奈川の戦略：「グローバル戦略」の推進 グローバル戦略の推進については、単発の施策ではなく、継続性のある事業展開をすべき。	ご意見については、事業実施の中で参考とさせていただきます。	

NO	委員名	意見	対応	二次評価（案）
8	観光			
1	内田委員	数値目標③については、グラフの付近にも地域名を入れたほうが良いのではないか。同じページ上方に記載があるかもしれないが、グラフの説明部分が新たな観光の核づくり地域という記載だけでは分かりづらいのではないか。	ご意見を踏まえ、評価報告書の記述を修正しました。	概ね順調に進んでいます。 ・訪日外国人観光客が増加していく中で、国別の来日状況やニーズなどを分析していく必要があります。 ・海外に向けた情報発信は、多言語化など外国人観光客のニーズを踏まえた上で、より一層進めていく必要があります。
2	川崎委員	数値目標①について、外国人観光客数の国別の状況が分かるとより良いのではないかと。	ご意見を踏まえ、評価報告書の記述を修正しました。	
3	川崎委員	海外にむけた情報発信の取組みとしてフェイスブックが4か国語による発信としているが、どの言語なのか。また、外国人観光客とのニーズにマッチしているのか。中国語にも簡体字と繁体字がある。これから伸びる国の取りこぼしがないように情報発信する必要があるのではないかと。	二次評価（案）に反映しました。また、ご意見を踏まえ、評価報告書の記述を修正しました。	

NO	委員名	意見	対応	二次評価（案）
9	マグカル			
1	内田委員	マグカル・パフォーミングアーツ・アカデミーがどこで行われているのかわかりやすくすべき。	ご意見を踏まえ、評価報告書の記述を修正しました。	概ね順調【一次評価と異なる】 ・マグカルの全県展開にさらに取り組む必要があります。 ・神奈川県民だけでなく、県外からも集客できるようプロモーションなどを検討していく必要があります。 ・世界に向けて神奈川の文化の魅力を発信し、いっそう人を引きつけていく必要があります。 (評価の理由) 数値目標は達成しているものの、プロジェクトのねらいである「マグカルの全県展開」という点において、県民ニーズ調査の結果等を踏まえ、上記のとおり更なる取り組みが必要であると認められることから「概ね順調」とする。
2	内田委員	横浜、川崎ではマグカルの取組みが広がっているが、小田原や箱根など県西地域などでも広がりを感じられるよう、全県展開を進めるべき。	二次評価（案）に反映しました。	
3	川崎委員	東京方面から神奈川に来るお客さんもジャンルによっては多いので、東京から人を呼び込む仕掛けを検討すべき。	二次評価（案）に反映しました。	
4	内田委員	「神奈川」に行くことに抵抗を感じる東京都民にも足を運んでもらえるよう工夫する必要がある。	二次評価（案）に反映しました。	
5	川崎委員	鎌倉や大山での能や、K A A Tでの宝塚公演など特別なものや既存で人気のあるジャンルには人が集まりやすいことから、ジャンルを絞って勝負をすることも重要ではないか。	ご意見については事業実施の中で参考とさせていただきます。	
6	村井委員	県内には音楽大学などがあることから、科学技術分野のように文化芸術分野でも産官学連携ができればよいのではないか。	ご意見については事業実施の中で参考とさせていただきます。	
7	川崎委員	数値目標の①について、裏づけがあつての目標値なのだと思うが、もう少し実績値が高くてよかったのではないか。	ご意見については事業実施の中で参考とさせていただきます。	
8	川崎委員	神奈川の戦略：「グローバル戦略」の推進 神奈川県グローバル戦略はどのような方向を向いているのか。医療分野が目立ち、ヘルスケア・ニューフロンティアの部分が重視されているように見受けられるが、文化芸術の理解度が上がる活動にも取り組むべき。	二次評価（案）に反映しました。	
9	川崎委員	神奈川の戦略：「グローバル戦略」の推進 「『グローバル戦略』の推進」のこれまでの主な取組み3マル目に「アーティスト」と記載があるが、そのジャンルが音楽なのか美術なのかかわかるよう記載をすべき。	ご意見を踏まえ、評価報告書（神奈川の戦略）の記述を修正しました。	

NO	委員名	意見	対応	二次評価（案）
10	農林水産			
1	内田委員	数値目標に売り上げ額を入れることなどを今後検討する必要がある。	ご意見については事業実施の中で参考とさせていただきます。	概ね順調に進んでいます ・神奈川県らしい農林水産業の今後の取組みについて検討していく必要があります。 ・農林水産業の担い手の確保について、引き続き取組みを進めていく必要があります。
2	内田委員	数値目標③について、消費者ニーズを把握して開発したとある。具体的な例を示すのがよい。	ご意見を踏まえ、評価報告書の記述を修正しました。	
3	内田委員	農業の新規参入者を増やしていくには、儲かるんだ、生活できるんだというところを見せていくことが必要である。	二次評価（案）に反映しました。	
4	村井委員	かながわ農業アカデミーなどでの農業従事者の育成などについては、経営改善とかリスク管理も含めた育成支援が必要である。	二次評価（案）に反映しました。	
5	内田委員	県内でもおいしい魚が取れるのに県民満足度が低い理由が分からない。水産業について言えば、魚の研究も進んでいるので、その部分を伸ばせると良いのではないかと。農林水産では農業に注目が集まりがちだが、水産業が活性化すれば1次産業全体の活性化につながると考える。	二次評価（案）に反映しました。	
6	川崎委員	農業は食料の確保といった重要な産業である。今後の神奈川県での農業はどの方向に進もうとしているのか整理する必要がある。	二次評価（案）に反映しました。	
7	内田委員	県の農林水産政策について長い目で見るとプランが必要であり、それを検討していくことが必要である。	二次評価（案）に反映しました。	

NO	委員名	意見	対応	二次評価（案）
11	減災			
1	北原委員	熊本地震の発生もあり、高まった地震への危機意識が薄れないようにすることが必要である。	二次評価（案）に反映しました。	概ね順調に進んでいます。 ・大規模災害への危機意識が減少することのないよう、引き続き、かながわシェイクアウト訓練等による意識啓発を進める必要があります。
2	山本委員	数値目標の達成状況について、「かながわシェイクアウト（いっせい消防訓練）の参加者数」が伸び悩んでいる理由を明らかにする必要がある。	ご意見を踏まえ、評価報告書を修正しました。	
3	北原委員	県の西部と東部では危機意識も変わってくることから（例えば、横浜市内では地震については関心が高いが、火山については関心が薄れる）、エリアごとの危機意識の共有の仕方が気になる。	ご意見については、事業実施の中で参考とさせていただきます。	
4	原嶋委員	評価報告書の指標以外にも、自治会・マンション管理組合等での防災対策の活動が広がってきているので、こういった活動などもうまく合わせて効果のあるものにして欲しい。	ご意見については、事業実施の中で参考とさせていただきます。	
5	山本委員	大人への教育も大事だが、子どもへも減災の知識を教えるような取り組みも必要である。	ご意見を踏まえ、評価報告書を修正しました。	

NO	委員名	意見	対応	二次評価（案）
12	治安			
1	北原委員	データ集では、侵入盗・ひったくりなどの件数は減少しており、実際に暮らしやすくなっているのだろうが、マスメディアで扱われる犯罪の質からのイメージと、データ集における犯罪が減少している事実が一致していない感覚がある。	二次評価（案）に反映しました。	概ね順調に進んでいます。 ・体感治安の改善に向けて、引き続き、犯罪や事故のない安全で安心なまちづくりの取組みを進める必要があります。 ・インターネット、スマートフォンなどがいっそう普及していく中で、サイバー空間の脅威に的確に対応していく必要があります。
2	北原委員	犯罪に関する件数が減っているというデータの出し方により、県民意識調査の結果も違ってくると思うので、広報、PR、教育などに力をいれる必要がある。	ご意見については、事業実施の中で参考とさせていただきます。	
3	原嶋委員	地域コミュニティの結束などにより、防犯・治安対策に繋がるのではないかと。	ご意見については、事業実施の中で参考とさせていただきます。	
4	原嶋委員	インターネットによる新しい犯罪などを踏まえ、サイバー空間の脅威について、もう少し重きを置いた方がよい。	二次評価（案）に反映しました。	
5	山本委員	インターネットが普及し、スマートフォンが安価に入手できる環境の中で、これから情報化がさらに進む。サイバー空間の犯罪や治安についても、指標の1つとせざるを得ない状況になる。	二次評価（案）に反映しました。	
5	北原委員	インターネットについては、保育園・幼稚園・学校でも、保護者と子どもにリテラシーの差異がでており、今後、これらの取り組みはさらに重要になる。	ご意見を踏まえ、評価報告書の記述を修正しました。	
6	原委員	高齢者が刑務所に入りたいという理由で、万引きや犯罪をすることもあり、高齢者の犯罪を防ぐためにも、セーフティーネットや地域コミュニティによるケアが必要である。	ご意見については、事業実施の中で参考とさせていただきます。	
7	山本委員	数字上では、治安は改善されていると出ているが、体感治安という面では、改善されている、よくなっていると思えないところがある。（県民ニーズ調査でも、治安対策が7年連続1位となっている）	二次評価（案）に反映しました。	

NO	委員名	意見	対応	二次評価（案）
13	男女共同参画			
1	北原委員	<p>神奈川の戦略：地方創生の推進 中学、高校、大学の頃から妊娠・出産に関する知識や将来の人生設計に関する教育を行っていく必要がある。（就職活動が始まる前に。気がついたら30を過ぎて生めないなど、そういった社会にならないように）</p>	ご意見については、事業実施の中で参考とさせていただきます。	概ね順調に進んでいます
2	北原委員	<p>神奈川の戦略：地方創生の推進 上記取組みに関し、学生を支援するための具体的な手法として学生とNPOや地域が関わるのが重要である。</p>	ご意見については、事業実施の中で参考とさせていただきます。	
3	伊達委員	<p>目標設定に問題があり評価できない</p> <ul style="list-style-type: none"> ・PJ13総合分析の4マル目など、神奈川県の高齢化率が高いとあるが、そもそもその人口動態がどのようなものであるのか、他の都道府県と比べてどうなのかといったときに、人口動態や社会環境を加味した上で、本当に高齢化率が高いのかどうかがある情報だけでは判断できない。より細かく、どういう状態なのかを見ていく必要がある。単純な比較ではこれでいいかもしれないが、より精緻にみていくとなるとかなり違ったもの見方をせざるを得ない部分がある。 ・総務省で出している数字に対して、神奈川県の係数をどのようにかけるのかという問題になる。これは、ネガティブな数字として公表されている場合、そもそも人口は減少しているのだから比べると実際はポジティブな状況という場合も考えられる。そうしたところの精度をあげられるといいのではないかと。nの問題もある。 ・スウェーデンに対して日本のM字カーブが比較されているが、スウェーデンの教育・福祉・税の使い方と比べて日本がどうなのかという考察がない中で、スウェーデンと日本の比較を示すと、しんどい施策になる。ベストプラクティスとして示すのは賛成でそこに近づけばいいというものだが、そもそも問題がいろいろと出てくるのではないかと。 	ご意見については進行管理等の課題として今後の参考とさせていただきます	

NO	委員名	意見	対応	二次評価（案）
14	子ども・青少年			
1	牛山委員	数値目標②の「児童相談所が受けた児童虐待相談のうち、一時保護を必要とした子どもの割合」について、相談があったのに何もせず保護しなかったと捉えられてしまわないよう書き方を工夫すべき。	ご意見を踏まえ、評価報告書の記述を修正しました。	概ね順調に進んでいます

NO	委員名	意見	対応	二次評価（案）
15	教育			
1	伊達委員	生涯教育として本当に学びたい人たちが、学ぶための場、より社会に開かれた教育環境を作っていくことが重要。海外に行くと高齢者や中高年がもう一度学びたいといって、夜学等で学んでいるケースが非常に多い。プロジェクトに記載の若年層の部分（高校生）に関しては、このまま取組を進めていただければと思う。	ご意見を踏まえ、評価報告書の記述を修正しました。	概ね順調に進んでいます

NO	委員名	意見	対応	二次評価（案）
16	スポーツ			
1	川名委員	数値目標①について、小学生が週3回以上の運動やスポーツを実施する率が低い理由を記載すべき	ご意見を踏まえ、評価報告書の記述を修正しました。	概ね順調に進んでいます ・積極的に運動やスポーツに取り組める環境づくりを進める必要があります。
2	伊達委員	子どもに対してスポーツの危険性を理由に規制することが多く、楽しむための整備がない。スポーツクラブの会員数増加も良いが、行政主導で身近な環境を整備すべき。 また、スポーツのポジティブな効果がアピールされていない。けがなどの問題ばかりに話題が集中したり、メディアの間違った情報発信によってスポーツに対してネガティブになっていることも含めて環境整備を大局的に行うべき。	二次評価（案）に反映しました。	
3	原嶋委員	神奈川の戦略：オリンピック・パラリンピック オリンピック・パラリンピックについて、競技だけでなく、このナショナルイベントを契機としたインフラ整備（羽田空港からのアクセス等）や集客など経済的な取り組みも視野に入れてはどうか。	ご意見については、事業実施の中で参考とさせていただきます。	

NO	委員名	意見	対応	二次評価（案）
17	雇用			
1	川名委員 伊達委員 橋本委員	ジョブカードは県の事業の中でどの程度重要視されているのか。 企業においては、スキルよりもやる気やコミュニケーション能力、人柄が重視されるため、悪いものではないが実際には機能しておらず、他の取組みに置き換えるべきではないか。	二次評価（案）に反映しました。	概ね順調に進んでいます。 ・若者、女性、高齢者など多様なニーズに対応した労働環境を整えるとともに、就業機会の拡大に向けた取組みをさらに進める必要があります。 ・就業支援については、ジョブカードの普及状況などを考慮しながら、より効果的な取組みを実施していく必要があります。
2	伊達委員	労働者の減少を考えたときに、シニアの雇用機会確保や、女性の配偶者控除の壁に対する取組みなどは、パイ全体を見てこういう分野において活躍できる場所がある、より活躍できるということを具体的に示しながら行うほうが効果的ではないか。	二次評価（案）に反映しました。	

NO	委員名	意見	対応	二次評価（案）
18	地域活性化			
1	原委員	県西地域を中心に未病の取組みによる地域活性化を進めているようだが、活性化しているようには感じない。 また、大磯についても新たな観光の核づくり地域として取り組んでいるが、まだまだと感じることから、より一層の地域活性化を図るべきである。	二次評価（案）に反映しました。	概ね順調に進んでいます。 ・地域活性化による効果が県民によりいっそう実感される、さらなる取組みが必要です。
2	原委員	交流人口の増加に加え定住化も目的に、観光振興を推進することも、ひとつの考え方である。	ご意見については、事業実施の中で参考とさせていただきます。	
3	朱委員	三浦半島あたりでは、外国人が魅力的に感じる観光資源が見出せていないように感じる。外国人観光客に向けたアピールがうまくいけば、観光客数の増加にもつながるのではないかと。	ご意見については、事業実施の中で参考とさせていただきます。	
4	北原委員	県民ニーズの動向で「地域の特性を生かしたまちづくりが行われていること」に満足している人の割合が減っているが、この点については、地域活性化の効果が感じられない表れではないかと。	二次評価（案）に反映しました。	
5	原委員	既存の資源の活用方法として、空き家などの宿泊施設への活用が考えられるが、現状では、建築基準法上のハードルが高く厳しい状況である。もう少し、フレキシブルに空き家を活用できるようになれば、県西地域で癒しを推進する中で、箱根以外の地域でも、宿泊を含めた取組みを展開できるのではないかと。	ご意見については、事業実施の中で参考とさせていただきます。	

NO	委員名	意見	対応	二次評価（案）
19	多文化共生			
1	朱委員	災害時通訳ボランティアの登録者数について、数値目標が達成されたことはいいことだが、言語別のニーズと通訳ボランティアの数が対応したものとなるようにすべき。	ご意見については、事業実施の中で参考とさせていただきます。	<p>順調に進んでいます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・留学生が卒業・修了後も神奈川で暮らしたいと思えるような環境づくりに取り組む必要があります。 ・災害時の対応や子育てに関する相談など、日本語が不自由な外国籍県民に対する言葉のサポートに引き続き取り組む必要があります。 ・日本語を母語としない外国籍生徒や外国につながる子どもなど様々なケースにも引き続き対応していく必要があります。
2	朱委員	学生が卒業しても、母国に帰らず、神奈川で就職したいと思えるような環境を整えるべき。	二次評価（案）に反映しました。	
3	朱委員	災害時だけでなく、日常生活においても言葉の壁は大きい。2世以降、日本の環境に慣れていくかもしれないが、特に来日1世など、言葉の壁がある外国籍県民のサポートが重要である。	二次評価（案）に反映しました。	
4	原嶋委員	外国人や日本語を母国語としないハーフの方など、国籍はケースバイケースだが、グランドデザインの中ではどのような位置づけとなっているのか。 外国籍だが日本語が問題なく話せる、日本国籍だが外国語しか話せない、実際は親が話さなくて子は話せるなど、様々なケースがあり、配慮をする必要があるのではないか。	二次評価（案）に反映しました。	
5	山本委員	食生活やライフスタイルの違いがある中で、宗教上の理由などにより食べ物が制限される場合、対応する食べ物をどこで手に入るかなどのサポートが必要である。	ご意見については、事業実施の中の参考とさせていただきます。	
6	原嶋委員	定住される外国籍の方へのケアと、それを受け入れる側の感触は違う。地元住民が抵抗感を示す場合もあることから、受け入れる側の感触を和らげるといことも重要な視点である。	ご意見については、事業実施の中で参考にさせていただきます。	

NO	委員名	意見	対応	二次評価（案）
20	協働連携			
1	北原委員	日本はまだ寄付意識が低いと感じる。NPO側の発信も重要であるとともに、市民がオーナーシップを持って活動していくことに対する支援が引き続き必要である。	二次評価（案）に反映しました。	<p>順調に進んでいます。</p> <p>・寄付文化の醸成にもつながるよう、NPOの活動に関する県民の認知度向上にいつそう取り組む必要があります。</p>
2	山本委員	神奈川に限った話ではないが、広く市民に、まだNPOの活動内容が認識されていないような気がする。NPOの活動を広報したり、インターネットでPRするだけでも、市民の関心が高まると思う。	二次評価（案）に反映しました。	
3	原委員	NPO法人の活動内容に対する認知の低さは実感する。寄付についても、税金のような間接的な活用ではなく、意思あるお金を直接活用するいうかたち、自分たちが地域をつくるということについて、PRする機会があってもいいのではないか。民間にとっても、そういった活動が活発な地域というのは魅力的に映るだろうし、そういうことをPRすることはいい。	二次評価（案）に反映しました。	
4	原委員	中間支援組織は、マネタイズ（事業の収益化等）が大変なことから、中間支援組織のあり方といったナレッジ（知識やノウハウ等）がシェアされる機会や情報の提供があると良い。	ご意見については、事業実施の中で参考とさせていただきます。	

NO	委員名	意見	対応	二次評価（案）
21	自然			
1	原嶋委員	鳥獣被害対策に係る問題では、外来動物についてアライグマを含めている出ているが、その点を含めて言及すべきである。	ご意見を踏まえ、評価報告書の記述を修正しました。	概ね順調に進んでいます ・域内の農地が生産手段として積極的に活用されるような取り組みを含め、里地里山の保全に引き続き取り組む必要があります。
2	原嶋委員	森林保全について地域の経済との関係が非常に重要であると思う。特に地産地消の取り組みは、道の駅や農業団体の産直などの取り組みが活発である。	ご意見については、事業実施の中で参考とさせていただきます。	
3	原嶋委員	屋上緑化や施設内緑地も含めた都市のみどりづくりを進める必要がある。	ご意見については、事業実施の中で参考とさせていただきます	
4	山本委員	数値目標の達成状況について、3項目中1項目で達成、1項目は大きく未達成、残り1項目で実績値はこれからとなっている。適切に評価するために実績値の未だ出していない項目について見込みであっても示す必要がある。	ご意見を踏まえ、評価報告書の記述を修正しました。	
5	原嶋委員	里地里山の保全について、地域内の農地が荒廃しないよう生産手段として活用されるよう維持していく必要がある。	二次評価（案）に反映しました。	
6	原嶋委員	鳥獣被害について、捕獲したイノシシやシカを適切に処理し食肉として流通させる仕組みに持っていく方が、人と動物の共生はうまくいくと思う。その方向に向かうよう、処理施設の整備などの取り組みが必要である。	ご意見については、事業実施の中で参考とさせていただきます。	

NO	委員名	意見	対応	二次評価（案）
22	環境			
1	原嶋委員	県内でもエコカー、スマートシティなどが増えてきているので、その点を考慮すべきである。	ご意見を踏まえ、評価報告書の記述を修正しました。	概ね順調に進んでいます
2	原嶋委員	地球温暖化対策について、昨年末に合意された国際的な枠組み、いわゆるパリ協定に基づく新しい目標に対して、県としてどう貢献するかということを含め今後検討する必要がある。	ご意見を踏まえ、評価報告書の記述を修正しました。	
3	原嶋委員	3Rのうちリサイクルについては、できることが限界に来ており、国では3Rから2Rに移る動きがある。特に生ゴミを減らすことは食品ロスにも繋がることもあり、生ゴミ対策にどう取り組んでいくのかについて言及する必要がある。	ご意見については、事業実施の中で参考とさせていただきます。	
4	北原委員	環境は省エネルギーとの関わりが強い。省エネルギーについては他のプロジェクトで取り上げているが、このプロジェクトにおいても言及すべきである。	ご意見を踏まえ、評価報告書の記述を修正しました。	
5	山本委員	数値目標の達成状況について、いずれも2015年の実績値はこれからとなっているが、2014年については「分析」に記載がある。2014年の値をグラフに示すべきである。	ご意見を踏まえ、評価報告書の記述を修正しました。	
6	原委員	資源が循環する仕組みについて学ぶため、海外では収集したゴミを分類して教材として活用したり、おもちゃにしたりしている。神奈川でもこのような取り組みができるとよい。	ご意見については、事業実施の中で参考にさせていただきます。	
7	山本委員	二酸化炭素の排出量の削減について、現在、発電については火力発電を基調にせざるを得ず、削減にも限界があるのではないかと懸念されている。	ご意見については、事業実施の中で参考とさせていただきます。	

NO	委員名	意見	対応	二次評価（案）
23	都市基盤			
1	原嶋委員	リニアの開通により、橋本を中心に良い意味で発展するとともに、県土全体で、いろいろな変化が生じるだろうから、そういったことを考慮してもよい時期ではないか。	二次評価（案）に反映しました。	順調に進んでいます ・今後の交通ネットワークの充実を踏まえ、引き続き、神奈川らしい県土づくりに取り組む必要があります。
2	山本委員	リニアが進むと商業立地、人の流れ、そういった影響もかなりあるのではないか。土地基盤を考えるうえで、県の変化も予測しながら、政策を組み立てていくべき。		
3	原嶋委員	必ずしも全てがポジティブな影響を受けるわけではなく、逆に、ネガティブな影響を受ける地域なども出てくると思う。その両方に配慮をする必要がある。		
4	朱委員	オリンピックを数年後に控えているにもかかわらず、空港周辺のアクセスの整備・促進というアバウトな表現で、具体的なものが見えていない。空港周辺アクセスというのは、神奈川県に対するアクセスという意味か。	ご意見を踏まえ、評価報告書の記述を修正しました。	

NO	委員名	意見	対応	二次評価（案）
共通				
1	伊達委員	二次評価に必要な質的な評価やデータの開示がないものがある	ご意見については進行管理等の課題として今後の参考とさせていただきます。	
2	伊達委員	データ集は数字的なデータばかりであり、県民の感情的・主観的な評価の研究が非常に希薄となっている。データ集の数字と県民感情がどのようにリンクしているのか、どのような対策をとれば数値目標の達成とともに県民が満足できるのか評価できるものにすべき	ご意見については進行管理等の課題として今後の参考とさせていただきます。	
3	橋本委員	数字だけでは背景が分かりにくい	ご意見については進行管理等の課題として今後の参考とさせていただきます。	
4	牛山委員	数値目標の速報値を示すことはできないのか。結果が出ない数値目標が多いならば、評価を遅らせるべき。	ご意見については進行管理等の課題として今後の参考とさせていただきます。	
5	伊達委員	数値目標の達成状況が未把握のものや速報値がある場合、達成状況を把握したときに大きな乖離があったものについて、評価を再検討をするようなプロセスが必要	ご意見については進行管理等の課題として今後の参考とさせていただきます。	
6	伊達委員	プロジェクトのねらいに対する評価としての精度を上げるために、不要と考えられる数値目標などの見直しをすることはありえるのか	ご意見については進行管理等の課題として今後の参考とさせていただきます。	
7	牛山委員	数値目標のグラフで、2013年の値があって、2014年の値がないものについては、2014の値も入れた方がよいのではないか。	ご意見を踏まえ、評価報告書の記述を修正しました。	